

日時：平成27年(2015年)7月14日(火) 14：00～16：30

場所：市役所 3-3 会議室

欠席委員：なし

傍聴希望者：1名

開会

企画経営部長

挨拶

委員

各委員自己紹介

市職員出席者

市職員出席者紹介

事務局

議題 1 委員長・副委員長の選出

行政評価委員会規則の第 4 条において、「委員会に委員長及び副委員長 1 人を置き、委員の互選により定める。」こととなっている。いかがか。

事務局としては、委員長には、多くの自治体の行政評価に参加され、行政評価に関する様々な知識をお持ちである京都府立大学の窪田委員に委員長就任をお願いし、副委員長には現在、兵庫県立大学 自然・環境科学研究所の講師を務め、協働の取り組みなども実践されている兵庫県立人と自然の博物館の藤本委員をお願いしたいと考えている。いかがか。

委員

異議なし

事務局

異議なしということで、委員長は窪田委員、副委員長には藤本委員にそれぞれお願いすることとする。それでは窪田委員長、就任の挨拶をお願いする。

委員長

委員長挨拶

事務局

では、ここからの議事進行は、窪田委員長にお願いする。

委員長

この委員会は原則として公開、傍聴を認めることとし、会議の結果も、ホームページ等で市民の皆さんに周知しているところである。傍聴の定員については、会場の大きさなどを考慮し、原則として 10 名程度とし、状況によって柔軟に対応したいと考えている。

本日の傍聴希望者はあるか。

事務局

本日の傍聴希望者は 1 名である。

<傍聴希望者入室>

議題 2 審議概要について

委員長

では、議題 2「審議概要について」に移る。事務局より説明をお願いします。

事務局

<審議施策、審議日程、その他資料等の説明>

議題 3 前年度評価について

委員長

では、議題 3「前年度評価について」に移る。事務局より説明をお願いします。

事務局

<前年度評価等の説明>

委員長

では、ここから、前年度評価した内容について、取組状況等の担当部署ヒアリングを行う。

<前年度の各施策指摘事項及び取組状況の資料をもとにヒアリング>

<p>【基本目標】 教育・子ども・人権                  【施策】「児童福祉」 ※前年度評価に対する取組状況等のヒアリング</p>	
委員長	<p>(2 子育てと仕事の両立支援に取り組みます)</p> <p>病児保育と病後児保育を一緒にやることに関してはいかがか。</p>
子ども家庭室長	<p>現在、病児保育は一部の民間会社で取り組んでもらっており、病後児保育は右岸左岸に 1 カ所ずつ整備した状況である。病児と病後児の隔離や医師、スタッフ等の問題があり、今のところは別で行っている。</p>
委員長	<p>一緒にすることで病気にかかる不安はある一方、利便性は向上されることが期待できるので、引き続き魅力的な取組の検討をお願いします。</p>
委員	<p>(3 安全安心の子育て環境づくりを地域ぐるみで進めます)</p> <p>学校間で児童数の格差ができてきているが、解決策はいかがか。</p>
教育支援室長	<p>大きな課題として認識している。検討していく必要があると考えている。</p>
委員	<p>早期に検討が必要であり、早急な対応が求められている。</p>
委員	<p>(全般)</p> <p>子どもの発達支援について、市内にどれほどの支援施設があるか、またそれらの施設で十分な対応ができていないか。</p>
子ども家庭室長	<p>子ども発達支援センターは、肢体不自由や知的発達の遅れがある子どもを対象とした通園施設であり、年度後半に定員に達する状況である。健常児と同じように障がい児を保育所に通園させる場合は、職員の加配により対応を行っており、また障害がはっきりしていない子どもについては、週 1 回参加可能なあそびっこ広場の事業に取り組む等、子どもの発達支援については、大方対応はできていると考えている。ただし、支援が必要かどうか分からない子どもに関しては、発達相談を行っているが、医師不足等の理由により 3 ヶ月程度待ちが出ている状況である。医師の確保等に取り組んでいく必要がある。</p>

<p>【基本目標】 教育・子ども・人権                  【施策】「青少年育成」 ※前年度評価に対する取組状況等のヒアリング</p>	
	<p>特になし</p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業</p> <p>【施策】「観光」 ※前年度評価に対する取組状況等のヒアリング</p>	
委員長	<p>(3 武庫川や宝塚大劇場周辺が持つまちの雰囲気・魅力を活用します)</p> <p>泉源地の管理について、温泉水の使用の大部分を市立温泉施設が占めているから泉源地の管理を 2 ホテルに委ねるのは厳しいと取組状況にあるが、ではなぜ市立温泉施設だけがそんなに多くの温泉水を使用しているのかという疑問が生じる。また、ホテルが温泉の PR に努めており、経済波及効果を鑑みると市で安定供給に努める必要があるとのことであるが、経済波及効果の有無というのは、市の支援の必要性を示す根拠に必ずしもならない。全体的に再度検討が必要ではないだろうか。</p>
委員	<p>(4 国内外からの観光客に優しいまちづくりを推進します)</p> <p>公衆無線 LAN の整備状況はいかがか。</p>
宝のまち創造室長	<p>手塚治虫記念館は整備を終え、平成 27 年度は花のみち周辺から市立温泉あたりまでを整備していく予定である。以後、宝塚駅から宝塚南口駅にかけての観光プロムナード一帯を中心に整備を行う方針である。企業への補助金を設け支援を行う等の取組も行っていく予定である。</p>
委員長	<p>業者によって、機器の価格差はあるか。</p>
宝のまち創造室長	<p>屋内型や屋外型など機器によって、価格差はある。見積り合せを行い、経費の節減を図る。</p>
委員長	<p>セキュリティが問題視され、やり直しが必要となった自治体もある。その点は十分注意されたい。</p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業</p> <p>【施策】「商業・サービス業・工業」 ※前年度評価に対する取組状況等のヒアリング</p>	
委員	<p>(2 宝塚ブランドを生かしたビジネスを育成します)</p> <p>アンテナショップについては、本来、市外に設置するのが普通であり、また、西宮市や伊丹市と比べ、立地場所等にも差がある。閉鎖されたが、今後どのようにお考えか。</p>
産業振興室長	<p>アンテナショップは通常、市外に設置することが多いが、今回は、国の緊急雇用事業の補助金を活用し、市内での雇用を図る目的もあったことから、アンテナショップという名前と事業に相違が出た部分はある。一定の売上はあったものの、国の補助金なしでの継続は難しい状況であったことから、昨年度閉店することとなった。しかし、受託していた事業者が、事業者同士の契約により、引き続き、</p>

<p>委員</p>	<p>自己の飲食店内でブランド選定商品等を販売しており、良い形で継続されていると考えている。西宮市や伊丹市については、良い場所に観光案内と物産のショップを設置しているが、市の費用も相当かかっている。本市においても、過去に観光案内所を阪急宝塚駅構内に設置していたことがあったが、費用対効果等を勘案し、閉鎖した経緯がある。今のところ、西宮市や伊丹市のような形での設置は考えていない。</p>
<p>委員</p>	<p>緊急雇用事業としては終わったが、アンテナショップの試みは重要であると思うので、経験を生かして、本格的にやっていくことを是非検討いただきたい。</p>
<p>産業振興室長 委員長</p>	<p>(4 地場商工業の活性化を図ります)</p> <p>受託事業の成果が見えにくいという市への指摘に対し、受託者に指示・要望していくと取組状況にあるが、指摘の趣旨は、市の説明責任として、市が成果や取組をきっちり出していくことが必要であるということである。</p> <p>今後、出し方について、検討を行う。</p> <p>受託事業については、商工関係に限ったことではなく、全般的に情報不足で見えにくいところがある。今後検討が必要である。</p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業</p>	
<p>【施策】「農業」 ※前年度評価に対する取組状況等のヒアリング</p>	
<p>委員長</p>	<p>(1 北部地域の農産物の販路拡大や消費拡大により農業の振興を図ります)</p> <p>新規就農者の状況や遊休地の活用に向けた農業を始めたい人との仲介に関する取組についてはいかがか。</p>
<p>産業振興室長</p>	<p>新規就農者は、24 年度は 4 人、その他は、例年 1~2 人の状況である。仲介に関する取組については、市の農業委員会がパトロールを強化し、農地の把握に努めているところであり、また、県の緑公社では農業を始める人に対する資金援助の支援もあることから、引き続き、県、市、農業委員会等の連携により取組を進めていく。</p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業</p>	
<p>【施策】「雇用・勤労者福祉」 ※前年度評価に対する取組状況等のヒアリング</p>	
<p>委員長</p>	<p>(1 若者の社会的・経済的自立を社会全体で支援する仕組みづくりを推進します)</p> <p>ワークサポート宝塚の必要性について、毎年 1 万件程度の相談があり、市民ニーズが高く、今後も継続していくと取組状況にあるが、たくさん相談があるという</p>

産業振興室長	<p>ことだけでは施設の必要性を説明する理由とならない。類似施設が車で 1 時間以上走らないとないという状況であれば別であるが。本来、国がやるべきことを市がやっているのではないか。</p> <p>ワークサポート宝塚では、職業紹介のほか、若者就職相談やキャリアカウンセラー、就職面接会等にも取り組んでおり、国と市が連携することで、単独で行うよりも充実した取組ができており、今後も充実していきたいと考えている。</p>
委員長	<p>前年評価時の委員会の認識と市の認識にズレがあったと感じる。ハローワークの職業紹介以外の機能があることの認識が委員になかったので、前年度の指摘があったと思う。様々な取組を行っており、機能の充実を今後図っていくのであれば、事業を継続する意義は出てくる。</p>

【基本目標】 観光・文化・産業	
【施策】 「消費生活」 ※前年度評価に対する取組状況等のヒアリング	
委員長	<p>(3 分かりやすい情報提供と啓発事業の充実に努めます)</p> <p>啓発事業を充実するにあたり、消費者から話を聞く等して、講演会等以外にどのような取組が有効かを探る必要があるのではないか。</p>
産業振興室長	<p>アンケート結果を見ると、市民カレッジ等の参加者は大変満足されている。ただし、参加者は、元々問題意識持っている方がほとんどあり、意識のない方にどうアプローチしていくかが今後の課題であると考えている。消費者教育推進計画を策定しようとしているところであり、そこには、子どもの頃からの消費者教育といった内容を盛り込むことも考えている。今後、充実を図っていく。</p>
委員長	<p>講演会等の参加者に意見を聞く等し、取組を検討いただきたい。様々な層に情報が提供されるよう、今後の取組に期待する。</p>

【基本目標】 観光・文化・産業	
【施策】 「文化・国際交流」 ※前年度評価に対する取組状況等のヒアリング	
委員長	<p>(1 戦略的な文化・国際交流事業を推進します)</p> <p>「宝塚市文化芸術振興基本計画」の主な内容はどのようなものか。</p>
宝のまち創造室長	<p>市内の子ども達に宝塚の文化を伝えるということが、一つの大きなテーマとなっている。また、市内には、文化で活躍されている方がたくさんおられ、そうした方の情報を一度、整理しようということを計画に盛り込んでいる。</p>

委員	<p>(2 文化振興財団や国際交流協会と連携し、市民主体の文化・国際交流活動を支援するとともに、国際理解を推進します)</p> <p>市内には、国際協力の NPO 団体があるが、国際・文化センターの指定管理者である宝塚市国際交流協会の事業との連携に興味を感じておらず、豊中の国際交流協会と連携している団体もある。宝塚市国際交流協会の国際協力に対する姿勢が弱いと感じる。中間支援としての宝塚市国際交流協会の取組をどう考えているか。</p>
宝のまち創造室長	<p>本市には、多くの外国人が訪れ、様々な国の外国人が暮らしており、多文化共生を築いていく必要があると考えている。宝塚市国際交流協会と市が連携し、国際協力に取り組んでいるが、マンネリ化している部分もあると思う。活動に幅を広げられるよう取組を検討していく。</p>
委員	<p>国際・文化センターの指定管理は公募か。</p>
宝のまち創造室長 委員	<p>非公募である。</p> <p>公募してはどうか。</p>
宝のまち創造室長	<p>宝塚の国際交流のことをよく知っている人が集まり、宝塚市国際交流協会を立ち上げたこともあり、宝塚市国際交流協会が宝塚の国際交流を一番よく分かっていると考えている。一部分の得意、不得意だけでなく網羅的によく知っているところに指定管理を行っていただく必要があると考えている。</p>
委員	<p>(3 市内に残る多くの文化遺産の保全継承と活用に努めます)</p> <p>宝塚にはたくさんの古文書があり、図書館の資料室にも多く置いているが、そういった周知が不足していると感じる。いかがか。</p>
生涯学習室長	<p>「文化・国際交流」の施策では、文化のにぎわい等の観点を重点的に捉えており、古文書の周知に関しては、「社会教育」の施策で対応していくものと考えており、そちらの方で取組を行っている。</p>
委員長	<p>文化に関する取組が「文化・国際交流」と「社会教育」で切り分けがあるのも分かるが、分かりやすさの点では関連事業は両方に載せるというのも一つの手である。</p>

**模擬評価**

委員長

では、ここからは次回からの評価に向け、模擬評価をしていく。事務局に用意してもらったサンプルで模擬評価を行うので、まずは 10 分程度でご一読願う。

<模擬評価>

【基本目標】健康・福祉

【施策】健康

【施策展開の方針】

『1 市民の健康意識の向上と健康づくりを推進します』

委員長

では、事務局より施策評価表の簡単な説明を願う。

事務局

<事務局より施策評価表の概要説明>

委員長

では模擬審議に入る。

<模擬審議>

委員長

では模擬審議を終了する。

委員長

最後に感想等を各委員から一言ずつ願う。

委員

<各委員一言>

(各委員一言から出た主な感想)

- ・総合計画策定以降、個別計画が策定されたものもあり、総合計画の施策目標と個別計画の施策目標で重きを置くところに微妙な違いがあるものが見受けられる。本来、総合計画の下位に個別計画が位置付けられるはずであるが、実際は、時間の経過に伴い、個別計画の方を優先している事例もあるのではと想定される。
- ・一つの施策に多くの事務事業がぶら下がっているものもあり、総合計画の施策の分け方も第 6 次総合計画の策定においては、考えていく必要がある。
- ・総合計画では施策毎の連携が謳われているが、施策評価は縦割りになっている。施策毎の連携についても意識していく必要がある。
- ・施策評価表の市民協働が抽象的。市民の目線から見て分かりやすいものにしてもらう必要がある。

委員長

では、事務局より次回について案内をお願いする。

事務局

<次回の日程、審議内容について説明>

委員長

では、これで本日の審議を終了する。